
季節外れの転校生 ~ 地球温暖化編 ~

吟雅ケイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

季節外れの転校生（～地球温暖化編～）

【ZPDF】

Z6910D

【作者名】

吟雅ケイ

【あらすじ】

舞台は森の奥底にある動物達の学校。そこへ真冬に転校してきた一匹の小熊。「なんで君は冬眠しないの?」「皆の問いかけに戸惑うクマ君は・・・。

(前書き)

某掌編コンテストに応募し、見事落選した作品。

お題や文字数による制限に振り回され、かなり無茶な作品に・・・

薄暗く深い森の奥、そこに聳え立つ大きな木の根元に、森に住む動物達の学校がある。

キツネ、タヌキ、トーンビ、シカなど、動物達は種の壁を越えて、毎日木陰の学校にやつてくるのだ。

今日も大勢の生徒が集まり、日の前に立つフクロウ先生の言葉に耳を傾けていた。

「今日は皆さんに新しいお友達を紹介します。隣の森の学校から転校してきたクマ君です」

フクロウ先生に紹介され、一匹の小熊が生徒達の前に歩み出ると、生徒達は皆一様に驚きの声をあげ、じょじょにの間ざわめきは収まらなかつた。

今の季節が冬だということを、皆よく知つていたからだ。

「ねえ、なんでクマ君は冬眠しないの?..

「君達は冬になると冬眠するんだよ?.. どうして起きているの?..

休み時間になると、生徒達はクマ君の周りに集まり、疑問や質問を投げかけた。

クマ君は困惑しながらも、

「今年の冬は暖かいから、冬眠しなくていいんだって、お父さん
が言つから……」

と、自信なさげに説明したが、その答へに生徒達は満足しなかつ
たらしく、

「たしかに雪も降つてないけど、朝や夜はすこし寒いよ。」

とか、

「冬は冬でしょ。いや、と冬眠しなきゃダメだよ。」

とか、そんなことを言つて続けるばかりだった。

クマ君は少々理解してもらえたことと苦笑し、さうした分か
つてもうかるのか必死に考えていた。

だが、その努力に反して、生徒達からのクマ君に対する態度は悪く
まうへと変化していく、

数日後には立派なイジメに発展していた。

「クマ君もやめとよ」と冬眠しているのに、変なクマ君

「クマ君もやめとよ」と冬眠しているのに、水をかけてあざつよ。」

「体を冷やしたひどく眠できるかもよ。水をかけてあざつよ。」

イジメは言葉から行動へとHスカレートしてこそ、徐々に激しさを増していく。

シカ君やタヌキ君が止めに入つたこともあつたが、いつの間にか彼等も傍観者になつてゐた。

「うひして、クマ君は転校してきてから一週間もせずに、孤立した。

ある日。クマ君は自宅の居間で新聞を広げてゐるお父さんの所にやつて來た。

新聞は毎日カラスが人間の街から拾つてくれる、数日遅れのものだ。

「ねえお父さん、僕達は冬眠しなくていいんだよね？」

息子の質問に、お父さんはびっくりして身を乗り出した。

「突然なにを言つ出すんだ。いいに決まつてゐるだらう。こんな冬らしくも無い冬に、いちじけ寝ていては時間がもつたいない」

はじめて冬眠しなくていいと言われたときと同じ言葉が返つてきたので、クマ君はうひして言つた。

「でも、学校の皆が冬眠しないのはおかしいって言つんだ

「そんなこと氣にするな。冬眠したことのない動物には分からぬことだ」

「そりなのかなあ・・・・・・」

結局それで会話は途絶え、クマ君は頭を垂れたまま自室に戻り、お父さんは再び新聞に視線を戻した。

新聞の見出しには『地球温暖化深刻、脅威の暖冬続く』と書かれていた。

それからまた数日が経つて、森にその冬で初めての雪が降った。

学校の生徒達は皆、雪を投げあつたり、雪だるまを作つたりして遊んでいた。

その楽しげな輪の中に入れず、クマ君は一人木陰で寒さに震えていた。

やつぱり冬。他の季節とは違つてとても寒い。

いつもして雪も降つてしまつた。

やつぱり冬の雪の話とおり、冬眠するべきなんじやないだろ? とか。

そんなことを思つてみると、いじめっ子のコーダーだったキツネ君がクマ君のところへやつて来て、

嫌味に満ちた吊つ田をギラつかせて言つた。

「クマ君、こんなに寒くて、こんなに雪が降つても、せっかく雪は冬眠しないの？」

キツネ君の言葉に、クマ君は何も言こ返せず俯くだけだった。

「もしかして冬眠していなのはクマ君だけで、今頃君のお父さんやお母さんも冬眠してたりして」

クマ君はハツとして顔を上げた。

今まで地面を捉えていた視線を上げると、その先にはニヤニヤといやらしい笑みを浮かべるキツネ君と、

その仲間達の軽蔑の眼差しがあった。

クマ君は耐えられなくなりてその場から全速力で逃げ出した。冷たい雪を踏みしめて、何度も転びそうになりながら走り続け、やがて森の中央を流れる大きな川へと辿り着いた。

流れはとても速く、水の冷たさがひしひしと肌に伝わってくる。クマ君は突き刺さるような激しい流れを見つめながら考えた。

この冷たい水の中なれば、冬眠できるといじやないか。

そりすれば、ここでじめられるなくなるんじやないか。

『今頃君のお父さんやお母さんも冬眠してたりして』

キツネ君の言葉が脳裏をよぎった次の瞬間、クマ君は冷たい川の中に身を投じていた。

明ぐる日、カラスが数日遅れの新聞を咥えて山へ帰ってきた。

新聞の一面を飾るのは、『川下流にて、小熊の凍死体発見』『冬眠しない熊の目撃数増加。温暖化の影響か』

となっていた。

あの日以降、森には翌年の冬まで雪が降ることは無かったといつ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6910d/>

季節外れの転校生 ~地球温暖化編~

2010年11月16日21時15分発行